

入選

## 先輩の親切が私を変えた

広島県 重井中学校 二年  
赤道 凜奏

私は「小さな親切」と聞いても、あまりよくわからない。でも、少し考えると、一つだけあるような気がする。部活のことだ。

私は、一年生のとき運動系が苦手で文化部へ入部した。これが、少しだけ私を変えたような気がする。初めての部活は、少し心配だった。何か失敗しないかな、怖い人ばかりだったらどうしよう、などと思いながら始めた。でも、私の考えとは反対に先輩や先生はすごく優しくて、何か失敗しても、「大丈夫だよ。」と言ってくれて、ホッとした自分がいた。

しかし1年の夏、ちょっとした失敗をしてしまった。私の中学校では、体育大会の看板を文化部が作るのだが、私が色をぬっているとき、絵の具を真っ白なところにたらしってしまったのだ。「どうしよう、大切なものなのに」と思い、当時3年生で部長だった先輩に、

「先輩、ここに絵の具が散って、汚れてしまったんですけど……。」

と言うと、先輩は、

「大丈夫だよ。みんなで直そう。そうしたらどうにかなるよ。」

と言った。汚してしまって心配だったので、とてもホッとした。今考えると、これは先輩の「小さな親切」だったのだと思う。そのときは、

「わかりました。すみません……。」

としか言えなかったが、今その先輩に伝えたい。

「あのとき、心配していた私に優しい言葉をかけてくれて、ありがとう。私も先輩みたいな人になりたい。」と。

それから1年たった今、私は2年生。今年もあの看板を作るときが来て、無事終わった。今年は後輩ができた。1年生は、おもしろいほど昔の私とまったく同じことをしていた。そして、私と同じようなことを言う。

「先輩、絵の具がたれたんですけど……。どうしたらいいですか。」と。

そして、私もあのときの先輩と同じようなことを言う。

「大丈夫、大丈夫。上から色をぬれば、どうにかなるから。」と。そして、思う。先輩、私先輩に少し近づけましたか。

もし、来年もこんなことになったら、言おう。

「大丈夫。」

これは、私を勇気づけて何かを変えてくれた大切な言葉。だからこれからも、言っていこう。

「大丈夫だよ。」